

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779300348		
法人名	医療法人六三会		
事業所名	グループホーム さやまの里		
所在地	大阪狭山市岩室2丁目185-11		
自己評価作成日	平成22年4月12日	評価結果市町村受理日	平成22年6月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2779300348&SCD=320
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号 親和ビル402号		
訪問調査日	平成22年5月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日三回の食事作りの場面には、開設当初からのとりくみで、利用者さまに何らかの形で参加していただいています。一人一人のできることできないことやその日の気分に合わせて楽しく会話をしながらの作業です。また散歩・花見・地域の行事・外食・コンサートなど一年を通じていろいろな外出スタイルを取り入れています。最近ではボランティアさんも定着し我が家の生活を支援してくださっています。リビング・ダイニングではいつも利用者さまが集まり外出先での想い出話や歌声が交わる楽しくにぎやかなグループホームさやまの里です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して9年余、大半の当初からの入居者と職員が織り成す家族の雰囲気温かく伝わるホームである。経験の長さに慣れることなく、社会的背景の変化に応じたサービス、入居者の変化に適合した支援のあり方についても意識し、利用者の「いま」と「これから」を大事に、ともに生きていきたいと努力している。日常生活の支援に参加する地域のボランティアに対して、単なる助成者としてではなく認知症高齢者への良き理解者・支援者として育成したいとする姿勢は、地域密着型施設の社会的貢献として大きく期待できるものである。職員の認知症高齢者介護への高い意識と実践力を評価し、次へのステップアップに助勢を惜しまない法人と幹部職の見識は、利用者・家族の安心と信頼に大きく繋がる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、理念に添ったケアを意識し実践している	理念「地域に根ざした家庭として、なじみの関係を築いていく」が、10年の歴史と共に職員に浸透し、日々の実践に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事や神社や寺の祭礼に参加して地域の人との交流につとめている	地域の季節的な各種行事に参加の他、月～金曜の生活支援に地域ボランティアの受け入れなど、開設10年に亘る地域との交流が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設との協力で隔月に「さやまの里」教室を開催している。また広報を通して地域の高齢者や介護者に役立つ情報をお知らせしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の近況報告やサービスの実際等について家族、地域の人々と話し合い意見や要望をサービスの向上に活かしている	開催期・構成員・会議内容ともに順当である。ホームの積極的な呼びかけや、会議内容の工夫により家族の多くが参加している。一層の活用に向けて更に努力したいとしている。	開設10年の経験を基に、事業所の機能と職員の力量向上、地域貢献拡充に向けて推進会議を活用すべく、構成員の弾力性などについての考慮・工夫に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて地域包括支援センターや市の職員と情報交換や交流を図るようにしている	市主導による施設部会・密着型の会合や各種研修会に参加するなど、連携・協力関係は維持されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中は出来る限り解錠し、安全に配慮しながらケアにとりくんでいる	「心・身体ともに拘束はしない」を確り認識したケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の行う内部研修や外部研修を通じて職員の虐待に対する理解と防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて日常生活支援制度や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、地域包括支援センターとの連携を諮りながら必要な人に支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分な説明を行い理解と納得が得られるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見や不満が表せる環境作りや意見箱の設置、毎月来られる介護相談員さんの意見を取り入れ運営に反映させている	家族に知って欲しいこと、協力して欲しいことも発信しながら、任せ切り家族を作らないための努力もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のGH会議で職員の意見や提案について話し合い運営に反映させている	日常ケアへの馴れや気付きの視点の薄れを防ぐために、各人が1年・1ヶ月の目標をたてて振りかえる作業を始めた。これらを基に職員会議を活性化させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課面談時に日ごろの努力や成果を評価し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修の機会を確保し、職員の育成に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGHと交流を持ったり、相互研修などで実習の機会を持ちサービスの質の向上や気づき力を高めるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを受け止めることに努め、じっくり話を傾聴する努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のおもいを傾聴し、不安や要望に耳を傾け受け止めるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の「その時」に応じた支援を見極め、他のサービスを視野にいれた調整に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を深く知るにより、本来の個性や力を発揮して頂ける関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を得ながら本人の生活を共に支援していく関係を提案している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係を大切に見守りながら支援している	在歴10年の数名との馴染み、入居して間のない人との馴染みを塩梅しながら、各人の事情に添ったホーム内外の関係づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や関わりを見守り、よく把握し共に助け合う場を作り、楽しく生活できるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	暮らしの継続性を大切にもらえるように家族や移転先に情報を詳しく伝える		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のおもいや意向にそった生活を可能な限り支援している	薄れる記憶、減少する理解力のなかでの一人ひとりに向き合うことからきっかけを貰い、今何を求めているかに想像力を働かせて支援したいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要に応じて地域包括支援センターや市の職員と情報交換や交流を図るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から生活歴や暮らしぶりを捉えていけるような関係づくりに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向をききながら介護計画を作成し、よりよく生活できるように意見やアイデアを取り入れている	ホーム会議で申し送りノートなどからの気付きを集積し、必要に応じての特別カンファレンスを行い、介護計画を作成し、その見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテや申し送りノートに様子を記入し情報を共有し日々のケアに活かし、介護計画の見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの受け入れや一人一人の状況や要望に応じて多様な支援の展開に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて地域資源と協力しながら暮らしを支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にしながら適切な医療が受けられるように支援している	個々人に応じた診察は家族対応としている。日常的には協力病院からの巡回診察と、医療連携対応の看護師の協力の下に、適切な健康管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康記録をもとに毎週巡回に来る看護師に健康状態を相談したり適切な受診や看護が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の早期退院に向けて病院関係者と情報交換を行い家族の相談にも応じている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者の症状について事業所としてできることを家族に伝え、担当医や看護師の指示を申し送りノートに記入し統一したケアにとりくんでいる	人員配置の点からホームでの終末期対応は出来ない。経口摂食が不可となり、医療措置の必要度が高くなった時点で、医療機関への搬送について家族と話し合うとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備え応急手当てや初期対応ができるように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体の訓練とGH独自で毎月災害訓練をおこなっている	規定の避難訓練以外に、様々な事態を予想し、非常階段を使うなどの訓練をしている。ホーム近くに、避難場所として民生委員所有の空き地提供がある。市の備蓄品提供についても申請手続きを進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーや誇りを損ねるような対応には十分気をつけている	永い入居歴と入職歴からの馴染みに流されない、個々人の性格・生活歴に応じた接遇を心掛けている。また、排泄介助時の対応にも十分配慮がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示出来る場や自己決定できる場面を提供しそれらを支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気持ちやペースを大切にしながら出来る限り希望に添った支援を提供している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれや意向をきいた身だしなみを支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、片づけなど一人一人の能力を活かし全て利用者と共にこなしている	週2回ボランティアも同行して買出しに行き、屋上菜園の収穫も食卓を賑わしている。外食やコンビニに弁当を楽しむ機会をつくるなど、「食べること」を大事にした対応がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の好みを把握し、介助方法を工夫しながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い一人一人の口腔状態を把握し、能力に応じた支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄できるように声かけをおこない支援している	入居当初の放尿癖に根気よく対応して正常になるなど、排泄介助は適切に行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動をとりいれ、便秘の予防につとめている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人が気持ちよく安心して入浴ができるように支援している	自立入浴できる人には見守りでゆっくりと、介助が必要な人には安全を第一にした支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の自然なリズムの生活習慣に応じて休息したり、良く眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法と副作用を知り、服薬の支援と症状の変化の把握につとめ医療関係者に情報を提供し服薬調整に活かしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴にあった役割や楽しみを活かした支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別あるいは少人数で戸外に出かけられるように支援している。時には家族さまの協力をお願いしている	高齢化・重度化により個別対応の度合いが高くなっているが、「お出かけノート」でその都度の状況を振り返りながら、外出の機会を確保したいとしている。恒例の一泊旅行も計画されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてお金の使用を援助し使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な時に電話がかけられるように見守り支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは適度な生活感や季節感を取り入れ安心して居心地よく過ごせる様に工夫している	食堂と居間は夫々に十分な広さがあり、落ち着いた設えで居心地の良さは十分である。通所利用者も和やかに寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に一休みコーナーを設けたり、リビング・ダイニングに様々なソファや椅子を置き自由に過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら危険でない限り馴染みの物や備品を持ち込んでいただいている	各人の持ち込み品や職員の手による調度品などで、男性・女性それぞれの特性あふれる居室が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や錯乱に思えるものは声かけで対応するようにし、安全に行動できるように見守り支援している		